



ブックカフェ取材記

会誌編集部

I. はじめに

読書と飲食などを両立させている施設は？と考えると思いついたのがブックカフェでした。ブックカフェといってもさまざまなものがありました。本と食べ物が共存できている場所のおおまかな分類をすると以下ようになります。

1. 図書館が飲食を許したところ
2. 大型書店がカフェと手を組んだところ
3. 本好きのカフェ店主などの飲食店が本を置いているところ
4. 雑貨や本などライフスタイルグッズ売り場とカフェが一緒になっているところ

これらの場所では本の汚損など図書館員が心配している事柄をどのように対処しているのか気になり、取材してきました。



図2 ミニ博物館

II. ALEC (有田川町地域交流センター)

1. ALEC とは

ALEC (アレック) は、和歌山県有田川町にある町立図書室地域交流センターのことで、公共図書館の分館、本のあるカフェ、マンガ館、mini 博物館が入っています (図1~6)。中庭の



図1 外観

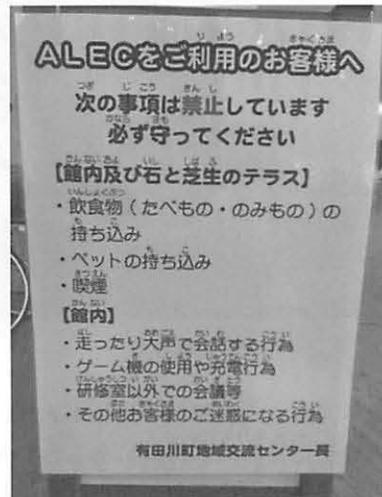


図3 利用上の注意



図4 カウンター前

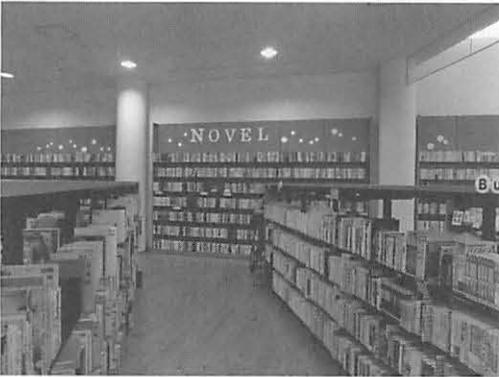


図5 単行本書架



図6 漫画書架

広場を取り囲むように平屋の建物があり、子供たちは広場や建物の入口付近にあるおもちゃなどで遊んでいます。にぎやかな声は時折おきませんが、図書館とカフェが一体になったコーナー

は一番つきあたりにあり、静寂さは保たれています。

図書館の入口には扉はありませんが、利用上の注意がはってあります(図3)。左側にカウンターがあり、その奥に図書コーナーがあります。正面にはひろびろとしたカフェ兼閲覧コーナーがあり、一番つきあたりにカフェのカウンターがあります。カフェ兼閲覧コーナーを囲むように、イベントなどを行うことのできるコーナーや、漫画書架コーナーがあります。

館内はおしゃれなカフェ風の内装、木製の備品でそろえられています(図7~11)。

クラシック(ピアノ曲)のBGMも流れ、邪魔にならない程度に利用者は会話していました。天井が高くゆったりとした雰囲気がとても居心地良くしていました。



図7 閲覧席1

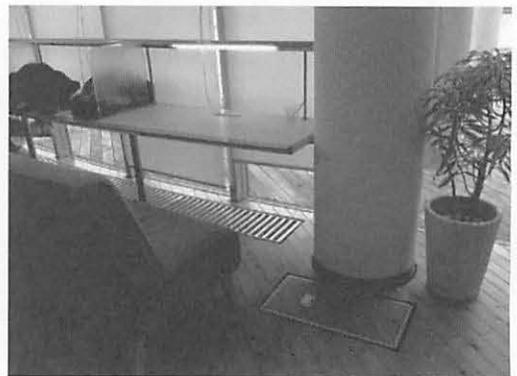


図8 閲覧席2



図9 雑誌書架

イベントができるように館内には舞台もありました(図12)。

また、館内から外のテラスと芝生へ直接出ることができます。子どもたちの遊んでいる様子が館内からガラス越しで見ることができます(図13、14)。



図10 足台



図12 舞台(右奥部分)



図13 テラスへの出入り口



図11 消火栓カバー



図14 テラス

スタッフの方は、公共図書館でよく見られるようにエプロン姿ですが、腰巻のカフェエプロンで、上は赤いTシャツでした。ブックトラックも赤色でした。

併設されたカフェは、マスコットキャラクターの「ありりん」が出迎えてくれます(図15、16)。

図書館とカフェがどのように融合されたのか、担当者の方にお話を伺いました。



図15 カフェスペースの入口付近



図16 注文カウンター前

2. 聞いてみよう

(1) ALECはどのように実現したのか?

市町村合併のときに図書館の設立が提案されました。しかし、まちづくり交付金に図書館が該当しなかったため、公民館である交流センターに本を置くという形になりました(図17)。



図17 地域のお店情報コーナー

(2) 本の汚損について

本が汚損することはあります。開館当初は多かったのですが、最近は減りました。汚損した場合、汚損した人が明らかにわかっている場合は弁償をお願いします。わからない場合は図書館が負担します。

(3) 話し声などの音について

周りに迷惑がかかるほど大声で話す人がいた場合、なるべく初期の段階でスタッフが注意しに行きます。例えば、話し声が大きい人には「申し訳ありませんが、もう少しだけ静かにしていただけますか?」とお願いしたり、走っている子がいたら「走ったらあぶないよ〜」と声をかけたりします。とにかく早めに対応することを心がけています。他の利用者から指摘を受けてから対応すると、話が大きくなってしまいます。芽は小さいうちに摘み取ることが大切です。

実は話し声よりもヒールなどの靴音の方が響いています。床が木なので仕方ありませんが。それで、ブックトラックのタイヤもゴム製のものにしました。

(4) 飲食について

持ち込みはお断りしていますが、カフェで購入されたものなら飲食できます。特に夏場などには熱中症予防のため水は無料で飲んでもかま

わないことにしています。飲食を許可することで集客力が上がりました。また、いろんなイベントを企画して利用者をさらに増やす試みをしています。クリスマスコンサートやフリーマーケットなど、すべて図書館スタッフが企画・実施しています。困ったことは、食べこぼしなどが床に落ちた場合、床が木製なので放置しておくとかびが生えてしまう場合があることです。それも早めに掃除しないとイケません。

(5) 座席の占拠について

飲食しながらなら利用してもらってかまいません。飲食せず、本も読まずの会議などは会議室でもらうようお願いしています。会議かどうかの見極めが難しい場合もありますが、その場合はしばらく様子を見守っています。試験勉強や荷物の置きっぱなしなどはあまり見られません。周りがみんな顔見知りということも影響しているのかもしれないね。

3. 編集部の感想と気づいたこと

クラシックのBGMが静かに流れ、家具や床を木製でそろえ、観葉植物があり、テーブルや椅子がかわいいなど、落ち着ける雰囲気作りをされていました。カフェみたいに落ち着けて根が生えそうという意見もありました。不思議なことに館内にはゴミ箱がありませんでした。

BGMのおかげで、声をひそめないといけないと思うほど気をつかわなくていいのが、居心地の良さの一端かもしれません。また、席と席の間が広くとってあり、隣の席の話し声もそれほど気になりません。天井が高いためか食べ物のニオイもこもりにくいようです。全体的に雰囲気がゆったりしていて、近くにあったらぜひ通いたいと思いました。

閲覧フロアをさえぎるものではなく、全体が見渡せるようになっていきます。変なことしたらすぐ目立ちます。そのせいか寝ている人は隅っこのほうで寝ていました。

ALECは市立図書館の分館ですが、中央館のようにスタッフが配置されています。どちらか

というと図書館よりも交流センターの色合いが強いかもかもしれません。正職員の司書(1名)の方の裁量と、非正規職員や臨時職員の力量により運営されています。さまざまな掲示物も統一感があり、カウンター前の企画展示も見やすく作られていました。

医学系の分類見出しに利用者目線が追加されており、病院図書館では使わないような「アロマセラピー」や「インフルエンザ」「肩こり体操」などの見出しがありました。

本の後ろに入れるストッパー(奥まで行き過ぎるのを防ぐもの)も木製でした。

発砲スチロールを上手く使って、わかりやすく目立つサインを自作されていました(図18、19)。これは病院図書館でもできそうです。

返却本は宝の山というメッセージつきのプッ



図18 サイン1



図19 サイン2

クトラックがありました(図20)。

話題書コーナーは書店のディスプレイのように立体配置でした(図21~23)。

小さいブックエンドを多用して、綺麗に整理整頓されていました。



図20 返却本置き場



図21 ポップ



図22 話題書コーナー



図23 話題書コーナー付近

Ⅲ. スタンダードブックストア 茶屋町店

雑貨屋と本屋が合体したお店で、雑貨や本などライフスタイルグッズ売り場とカフェが一緒になっているところと思われます(図24)。購入せずにただ読むだけでも大丈夫です(図25)。



図24 カフェの案内表示



図25 カフェの様子

よくある書店のように種類ごとの表示などはなく、テーマごとにさまざまな種類の本が置かれていました(図26、27)。探しながら楽しむところです。どちらかというともニア向けのよう感じました。連想本棚と言ってもいいかもしれません。普通の書店では気づきにくい本があることに気づきます。雑貨の一部として本を配置しているようなので、売れそうなものを選択して設置しているように見えました。

内容は主に女子向けで、女子は見ている楽しめかもしれません。思いがけない発見やひらめきがあり、アート系の創作活動をしている人にも合っているかもしれません。

雰囲気や内容のためか、今回訪れたときは客層が限定されていました。喫茶店などを比較的大人数で利用する年配層や学生は見かけません

でした。どちらかというとも一人または二人連れで来ている人が多く、本を探しに来たというよりは雑貨を見るついでに本棚を見ているように感じました。カフェで本を見ている人もワイワイしゃべる感じはなく、静かに本を読みながらお茶を飲んだり、ご飯を食べたりしていました。

医療系の本はなく、衣食住やデザイン、旅行関係などの本が多く見られました(図28、29)。

テーマ(例えばきのこ)にまつわるものを一まとめに展示していて、本、雑誌、雑貨など、テーマに関係するものならなんでも置かれていました(図30)。

BGMもうるさくない程度に流れていて、落ち着いて本が読めそうな雰囲気でした。

カフェに持ち込んではいけない本は、本自体にそのように表示されていて、読み終わった本



図26 書架内容



図28 書架内容3



図27 書架内容2



図29 書架内容4



図30 きのことテーマの売り場

を返すための場所もありました。

IV. おわりに

図書館と飲食・話し声は共存できるのか不安がありました。が、できているところはあるようです。スターバックスコーヒーとコラボした三省堂書店（ルクア大阪店）にも立ち寄りましたが、スターバックスコーヒーだけでも人気があるので、カフェは客が多すぎて落ち着いて本を読む場所という感じではありませんでした。図書館と飲食・話し声の共存は地域性や環境、費用によって大きく左右されるものなので、どこでもできるかどうかはわかりません。図書館

員としては、同じ利用してもらおうのであれば、できるだけ心地良く利用してもらいたいと思いました。

BGM はどのジャンルの音楽をかけるかによって異なりますが、適度な騒音は無音よりも心地良いものだと感じました。また患者図書（一般書の場合）などでは、連想本棚のような配架にすると退屈することなく利用してもらえるかもしれないと思いました。

電子ジャーナルの導入が進み、利用者が図書館へ来なくなるかもしれないという不安をお持ちの方は、場としての図書館のあり方を見直してみてもいかがでしょうか。病院図書館が調べだけの場所ではないことを、皆さまにご存知のはずです。利用者が心地良く居られる場所としての図書館も存在価値の一つではないでしょうか。

最後になりましたが、取材にご協力いただきました ALEC の皆さま、掲載を許可して下さったスタンダードブックストアさまに感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 尼川ゆら、尼川洋子、多賀谷津也子. 図書館を演出する一今、求められるアイデアと実践. 大阪：人と情報を結ぶ WE プロデュース；2010.

(文責：井上智奈美／三菱京都病院)